

平成 27 年度「全国学力・学習状況調査」に係る夕張市の結果公表

平成 27 年 12 月

1 夕張市の参加状況

夕張市立ゆうばり小学校第 6 学年 31 人、夕張市立夕張中学校第 3 学年 36 人

2 調査を実施した学校・児童生徒数

・北海道（公立）

・全国（公立）

	実施学校数	児童生徒数		実施学校数	児童生徒数
小学校	1,076 校 (99.6%)	42,068 人	小学校	20,005(99.9%)	1,061,301 人
中学校	606 校 (99. 3%)	40,966 人	中学校	9,691(99.6%)	1,016,737 人
合 計	1,682 校 (99. 5%)	83,034 人	合 計	29,696(99.8%)	2,078,038 人

※特別支援学校、札幌市を含む ※欠席により調査日に実施できなかった学校は含まれない。

3 調査内容

- (1) 調査対象学年 小学校第 6 学年、中学校第 3 学年
- (2) 調査教科 国語、算数・数学、理科
- (3) 内 容
- ・主として「知識」に関する A 問題、「活用」に関する B 問題
 - 理科は主として「知識」「活用」に関する問題を一体的に出題
 - ・生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
- (4) 調査実施日 平成 27 年 4 月 21 日（火）

4 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

5 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査

小学校

【国語・算数】

- ・国語・算数の A 「知識に関する問題」、B 「活用に関する問題」が、北海道の平均正答率よりやや下回る。

（* 以下、「知識に関する問題」は A、「活用に関する問題」は B と表記する。）

- ・領域別正答率では、算数Aの「量と測定」「数量関係」、Bの「図形」が北海道の領域別正答率に近いが、それ以外の「数と計算」領域および国語A・Bの「話す・聞く」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域は北海道の領域別正答率を下回る。
- ・北海道の平均正答率を下回る要因を無解答率からみていくと、国語Aでは短答式問題、Bでは短答式と記述式問題に無解答が多い。
漢字は、日常的に読んだり書いたりしているものは正答率が高い。習得した漢字を日常的に活用するとともに、文章構成理解の力が求められる記述式問題には主語と述語をとらえる学習等で文章構成力を培う必要がある。
- ・算数Aでは「量と測定」領域で北海道の平均正答率を上回っており、「数量関係」領域も北海道の平均正答率に近い。北海道の平均正答率を下回るのは「数と計算」「図形」領域であるが、A問題では無解答がほとんどなく基礎学力を生かして問題に取り組んでいる。
- ・算数Bでは「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の全領域で北海道の平均正答率を下回っているが、「図形」は北海道の平均正答率にほぼ近い結果である。また、正しい求め方やそうなるわけを書く短答式・記述式の問題に無解答が多い。児童質問紙の「授業等で自分の考えを説明したり、文章にすることは難しい。」に半数の回答があり、苦手意識を持っている。自分の考えの妥当性について定義を基に表現する、話し合いの場を設けて根拠となる事柄を過不足なく説明する等、実感のある学習の継続が必要である。

【理科】

- ・問題は主として「知識」に関する問題と「活用」に関する設問になっており、「知識」に関する問題は、北海道の平均正答率とほぼ同じであり、A区分の「物質」では上回っている。「エネルギー」とB区分の「生命」は北海道の平均正答率を上回る問題もあるが、全体的に北海道の平均正答率より低い。B区分「地球」は北海道の平均正答率に近く、学習したことを日常生活で活用することにより理解が深まる。また、実験器具の名称を全員が正答している等、実験や観察のある理科学習への興味・関心の高さもみられる。

中学校

【国語・数学】

- ・国語と数学のA「知識に関する問題」、B「活用に関する問題」が、北海道の平均正答率を下回る。
- ・国語の領域平均正答率は国語Aで北海道の平均正答率を下回るが、国語Bの「書くこと」では、北海道を上回っている。数学では、領域の平均正答率がA・Bと

も北海道の平均正答率を下回るが、数学Bの「関数」は他の領域の差より小さい。

- ・問題形式では国語A・Bともに短答式・記述式の問題に無解答が多い。数学Aは短答式に無解答率が高く、数学Bでは短答式・記述式の問題に無解答率が高い。
- ・数学は資料の傾向や数量の関係を的確に捉え、判断の理由や関係性を数学的表現で説明できるようにする。また、事象を数学的に表現しその意味を的確に解釈し判断の根拠に用いたり、問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにすることも必要である。

【理科】

- ・北海道の平均正答率を下回るが、「主として知識に関する問題」は、北海道の平均正答率とほぼ同様であるのに対して、「活用に関する問題」は、差がある。
- ・第1分野の「化学的領域」は、北海道の平均正答率との差は小さいが、第2分野の「生物的領域」は、顕著な差がある。
- ・理科も数学と同様に記述が求められる問題形式で無解答率が高い。

(2) 質問紙調査

小 学 校

- ・授業以外の勉強時間は「3時間以上」と「2時間以上3時間より少ない」の合計が北海道と全国を上回り、「1時間以上2時間より少ない」の回答が減少している。児童の半数は平常日において1時間以上の家庭学習をしている。
- ・テレビやビデオ・DVDを見る時間は「4時間以上」「3時間以上」「2時間以上」の合計が北海道と全国を下回り、長時間のテレビやビデオ視聴が減少傾向にある。
- ・1日のゲームの時間は「4時間以上」「3時間以上」「2時間以上」「1時間以上」の合計が北海道を下回り、「1時間より少ない」「全くしない」の回答が増えている。
- ・困難なことへの挑戦は「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の回答が多く、積極的な挑戦意欲がみられる。しかし、「自分にはよいところがあると思いますか。」の質問には、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の回答が、北海道・全国下回り、自己肯定感が低い傾向にある。身近な家族や友達に認められる経験を積むことが大切である。
- ・将来の夢や目標はほぼ全員もっており、北海道・全国を上回っている。
- ・「読書が好き」の回答が半数以上あるが、北海道・全国より若干下回り、「学校へ行くのは楽しい」の回答は北海道・全国より下回っている。
- ・規範意識としての「学校のきまりを守る」「いじめはどんな理由があってもいけないこと」の質問に多くの児童が「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答しているが、「当てはまる」のみの回答は北海道・全国を下回る。
- ・「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝る」「毎日同じくらいの時刻に起きている」の質問は「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の回答合

計が北海道・全国を下回る。

中 学 校

- ・授業以外の勉強時間は「2 時間以上 3 時間より少ない」「1 時間以上 2 時間より少ない」の合計が、北海道・全国を上回り、半数の生徒が 1 時間以上の家庭学習をしていると回答している。
- ・テレビやビデオ・DVD 視聴時間は、「4 時間以上」と「3 時間以上」の合計が北海道・全国を大きく上回る。
- ・1 日のゲームの時間は「4 時間以上」が北海道を下回るが、「4 時間以上」「3 時間以上」「2 時間以上」の合計が北海道・全国を上回っている。
- ・困難なことへの挑戦は「失敗を恐れず挑戦をしている」の回答が半数を超えて北海道・全国を上回る。自己肯定感は北海道・全国より下回るものの半数以上が自分にはよいところがあると回答している。
- ・将来の夢や目標は半数の生徒が「持っている」と回答し北海道・全国を上回るが、「持っていない」の回答が北海道・全国を若干上回る。
- ・「読書は好き」の回答は北海道・全国を下回り、「あまり好きではない」の回答が半数以上である。
- ・多くの生徒が「学校へ行くのが楽しい」と回答しており、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」の問いにも多くの生徒が「当てはまる・ほぼ当てはまる」回答している。
- ・「学校の規則を守っているか」・「いじめはどんな理由があってもいけないこと」の質問は「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の回答合計が北海道・全国を上回り、規範意識が高い傾向にある。
- ・「自分にはよいところがあると思いますか。」の質問は、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の回答合計が北海道・全国を下回り、自尊感情の低い傾向にある。
- ・「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝る」の質問はいずれも「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の回答合計が北海道・全国を下回るが、「同じくらいの時刻に起きる」は、北海道・全国を上回る。

6 結果の考察

学力調査の結果は小学校国語・算数の「知識・活用」問題で北海道の平均正答率を下回っています。国語「知識」の差は小さいので算数も含めて引き続き基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための改善が求められます。中学校は、国語・算数の「知識・活用の全問題」で北海道の平均正答率を下回る結果です。

学習状況調査の「授業以外で一日の勉強する時間」は小学校の家庭学習の定着と中学

校の家庭学習時間の延長がみられます。これは、家庭の協力のもと児童生徒が目標に向かって努力をする姿勢に変わってきたものと推察します。

小学校から中学校への連続した家庭学習の取組や将来の希望に向かう学習意欲の向上のために再度、北海道教育委員会が設定した学習時間等の目安を提示いたします。

◇学習時間	
小学生	1 学年＝20 分以上 2 学年＝30 分以上 3 学年＝40 分以上 4 学年＝50 分以上 5 学年＝60 分以上 6 学年＝70 分以上
中学生	1 学年＝80 分以上 2 学年＝90 分以上 3 学年＝100 分以上
◇メディアに触れる時間（テレビ・ゲーム・インターネット・携帯電話など）	
1 日合計 2 時間以内（約束を決めて十分な睡眠や家庭学習の時間を確保する。）	
◇読書する時間	
1 日 10 分以上（10 分の読書をきっかけに「10 分+α」を自分でつくる。）	

この目安を参考にご家庭でお子様と話し合ってみてください。

次に朝食の習慣です。朝食抜きは、脳にエネルギー補給のない状態で、むりやり頭や体を使い集中力が低下したまま授業を受けていることになります。

朝食をしっかり食べるには、早寝早起きのリズムを整えることが大切です。30 分早く寝る、10 分早く起きる、就寝前の間食をやめるなどの生活の見直しを行い、1 日のスタートになる朝ご飯を家族で大切にしてください。

最後に本調査は、学力の限られた一部であり学力のすべてや序列を表しているものではありません。この結果を夕張市教育委員会は真摯に受け止め、子供一人一人が自立へのステップを確実に歩むことができるよう改善できるところは改善し、家庭や地域との連携を一層進めて、保護者の皆様や地域の方々とともに夕張の子供たちの学力向上に取り組んでまいります。今後のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【平成 27 年度全国学力・学習状況調査結果分析・公表 夕張市教育委員会教育課】